

3-10

ターミナルケア

意識改革

寄り添う介護「たった一度の人生」

最期、誰に手をつないでほしいですか

特別養護老人ホーム ゆたか苑

発表者：介護職員 山脇 啓子	共同研究者：介護職員 岩崎 葉子
所在地：東京都豊島区長崎3-26-4	共同研究者：介護職員 福島 洋一
TEL：03-3959-2129	E-mail：yutaka-c@douen.jp
FAX：03-3959-2149	URL：http://members.tripod.co.jp/yutakaen/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人立で平成8年4月、隣接する長崎公園とともにゆたか苑は開設されました。50床の特養で現在4床のショートステイを併設しています。その他居宅介護支援事業では2名のケアマネージャーが地域で元気に活躍しています。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

- ・平成20年度、ゆたか苑では4名の方の最期に立ち会う事ができた。看取り介護を行った時、介護職からの反省・不安がいくつかあがってきた。
- ・それを元に人生の最期を「幸せだった」「ここでよかった」と少しでも思っていていただくには私たちがどのように関わったら良いのか職員全員で考えた

〈具体的な取り組み〉

- ・「最期を出来る限り寂しい思いをさせたくない」介護職員に看取りに関するアンケート実施し、その中の意見から夜間3人体制（深夜勤体制）を4月より試行している
- ・利用者様に死生観について聞き取り調査を実施
- ・ご家族とご本人の意向に添える居室の用意
最期をご家族とご一緒に過ごしていただけるようにご家族が泊まれる部屋を用意。（施設の構造上、ご本人と一緒にの部屋というのは無理なので、別個に部屋を用意する）
- ・介護職の「看取り介護」に対する認識向上のためOJTを実施
- ・医療機関との連携
主治医を豊島区医師会に依頼し、5名の内科医（主治医）体制にし、リーダーの主治医との連携で5名の主治医の協力体制を確立。協力医療機関のバックアップ体制により状態悪化見られた時点で受診しカルテ作成。受け入れ態勢を確立する
- ・緩和ケアとしてタクティールケア導入
- ・デスカンファレンスの実施

〈活動の成果と評価〉

- ・介護職員全員に看取りに関するアンケートを配布し、看取り介護に対する思い、意見を書いてもらう
→アンケート結果からOJT内容を決める
- ・どのように暮らしたいか、どのような最期を迎えたいかなどの思いに一步でも近付きたい。そのために利用者様に死生観について聞き取り調査を行った
→日常の介護に活かす
- ・介護職の日ごろの状態観察により異常を早期発見できる。
→看取り介護は日常の延長線上にあると捉える
- ・タクティールケアの導入
→精神的に落ち着かれる

〈今後の課題〉

- ・職員の『死』に対する意識を「怖い」ではなく、「必ず迎えること」というものにするために、最期に立ち会う事のできた体験を大切にする
- ・その方が望む最期に応えられるような体制をつくる
- ・各セクションを交えての意見交換の場を持つ（情報共有につなげるために）
- ・故人を偲ぶ会の実施

【メモ欄】